

たかはぎし 議会だより

No. 115

2011年11月7日 発行

発行 高萩市議会
発行責任者 議長 鈴木 英樹
編集 集 高萩市議会だより
編集特別委員会
〒318-8511 茨城県高萩市春日町3-10
電話(0293)23-5373



第62回 茨城県消防ポンプ操法競技大会県北地区大会 第3分団（安良川）の競技

主 な 内 容

市政に対する一般質問	2
議案に対する質疑	6
討論	7
議案等審議結果	9

去る9月2日から21日までの20日間の日程で、第3回定例会が開かれ、市長から専決処分の報告、条例の制定及び一部改正、補正予算、平成22年度一般会計等の決算認定について提案され審議しました。また、議会最終日に震災復興等対策特別委員会の調査報告及び議員から条例の一部改正1件、意見書案2件が追加提案され審議しました。

平成23年第3回定例会

平 正三 議員

放射能対策について

質問 放射能汚染のホットスポットといわれる小中学校、幼稚園、保育所における側溝、雨どいの下、芝生、通学・通園路の放射線測定を行っているか。

副市長 学校内における除染の要否判断の目安とした1マイクロシーベルト以上の場所、小学校2校、中学校2校、幼稚園2園、保育園1園の計7施設、19か所あり、表土の除去作業を実施している。通学路については、現在、測定を実施している。

質問 市内の公園、ちびっ子広場の放射線測定を行っているか。

副市長 公園の放射線測定は、4月26日から29か所で行っている。子ども広場は9か所の内、6か所を測定した。

質問 全ての公園の測定結果を公表すべきでないか。

副市長 公表できるように内部で検討していきたい。

質問 内部被曝を心配する市民から健康調査や内部被曝検査の要望に、どのように対応しようとしているのか。

副市長 茨城県が放射線量は安全なレベルにあるとして、健康調査が必要ないと見解を出している。市としても必要ないと判断している。

質問 市民から農産物の放射能測定

をしてほしいとの要望にどのように対応するのか。近隣の自治体では、放射能測定器を購入し要望に応じている。

市民生活部長 放射能測定器の購入は考えていない。

質問 学校給食の放射能検査は、どのように考えているのか。

教育部長 茨城県が行っている測定結果で、安全が確認されているものを使用している。高萩産は納入業者が測定し、安全が確認されている。

質問 放射線測定器を購入し、希望する市民に貸し出す対策をとるべきではないか。

市民生活部長 測定器の貸し出しについては考えていない。

(その他の質問)

○住宅用太陽光発電システム設置助成制度について

○デマンド（乗り合いタクシー）交通システムについて



空間放射線を測定
(秋山の第一浄水場)

寺岡七郎 議員

津波対策について

質問 国の中央防災会議専門調査部会は、今後の津波対策に関する中間報告をまとめました。想定する津波を高い頻度で発生し、被害が比較的小さいケースと低い頻度で起きて被害が最大級のケースと二つに分けて分類した上で、最大級の津波には、堤防などではなく住民の避難を基本として対応すべきとなりました。これまで堤防などハードな対策を重視してきた国の津波対策が大きく方向転換しました。また、津波を従前の想定をはるかに超えた規模とした上で、津波が堤防を越えることを前提とし、住民がスムーズに避難できるように、避難ビルの指定あるいは避難路の整備が必要であるとなっています。津波対策で最も大事なものは、いかに早く情報を正しく伝えるかです。防災無線は知らせる行為では最も中心的な役割を果たすものであります。

その上に立つて今後は堤防だけに頼らないとすれば、避難路の整備が最も必要であります。命にかかわる問題だけにスピーディに進めていく必要があります。

建設経済部長 現在の作業状況については茨城県内において地下通路建設整備及び橋梁建設費等の積算根拠資料の収集を行っているところでございます。

質問 避難路確保は予算も含めてかなり時間がかかると思う。しかし計画があつて遅れるのは仕方ないとしても、計画が無いのが一番問題である、一日も早く計画を立ててほしい。

避難ビルとして駅東においては、東小中学校と高萩中学校が指定されているが、駅東に住んでいる約7000人が避難を余儀なくされる。東小中学校と高萩中学校でどの程度避難人口を受け入れられるのか。この2か所に集中したら、飽和状態で避難場所からまた避難しなければならぬことになる。

市長 避難路については、市民の方々が津波等があった場合、どのルートをとらどって避難して行けばいいかお示しさせていただきます。

議員ご指摘のところまでは当時の作業では想定ございませんでした。今後更にご指摘を踏まえ、決まり次第市民の方々に告示し出来ればと思っております。



護岸が崩れた関根川河口

菊地正芳 議員

避難所・仮設住宅のあり方について

避難所で溢れかえる避難所では女性や乳幼児を抱えた人、障害を抱えた人達は周りに気遣いすぎて精神的に病んでしまう。孤立してしまうと言う事態が考えられる。こうした二次的被害の発生を最小限にとどめるためにも、女性や子育て、障がい者等に配慮した避難所の設計・セッティングが必要であると思うが見解を伺う。

災害協定について

老人福祉施設と災害協定を結び、在宅の要援護者を受け入れて医療的ケアや介護を実施すべきである、もう一点は、松久保工業団地の事業者との災害協定である。特にトイレの開放など支援をいただければ安心感が増し、落ち着いて避難待機が出来ると思うが取り組みについて見解を伺う。

飲料水タンクの備蓄について

今回は給水場に行くにも緊急事態で入れ物がなく、多くの市民は飲料水の確保に苦慮した。高齢者や障がい者にも使いやすい、折畳みでリュック式飲料水タンクを備蓄し非常時に配布すべきと考えるが見解を伺う。

行政防災無線について
公明党として要望または議会でも取り上げてきた防災無線の外部拡声器は、今回常磐線より東の海側に16

基設置する事が決まりました。その上で、防災無線の戸別受信機の配備と自動音声サービスについて提案をし見解を伺う。防災無線の外部スピーカーは強風とか強い雨のときには聞こえにくいという問題がある。ましてそのような時は、戸締りを厳重にして家の中で過ごすというのが一般的である？こうした時、余計に情報が伝わってきにくくなります。

そこで威力を発揮するのが戸別受信機である。それでも聞き逃してしまつた方の為に、フリーダイヤルで役所に電話すれば内容が確認できる自動音声サービスが効果的である。以上戸別受信機の配備と自動音声サービス



日立市に導入されているAM/FMラジオ付戸別受信機

学校施設の防災機能の整備について

学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことから、耐震性の確保だけでなく、食料・生活必需品を提供できるように必要物資を備蓄するなど、避難生活に必要な防災機能の確保は極めて重要である。防災機能の強化・整備について見解を伺う。

八木陽子 議員

健康長寿事業について

質問 埼玉県小鹿野町の高齢者福祉は、家庭訪問を通し、きめ細かなサービスを行っています。人口は高萩市の約半分、75歳以上の高齢者数は高萩7989人に対し小鹿野町は3865人という状況です。高萩市は保険医療課、高齢福祉課、健康づくり課に分かれています。小鹿野町は三部署が一つになって福祉課となっています。地域を60地区に分け28名の保健師がそれぞれの地区を担当し夜はもちろん土曜、日曜も関係なく座談会を開き、健康指導だけでなく悩み事の相談も受け、生活習慣病の食事指導も行っている現状です。民生委員の方も年に152日以上家庭訪問を行い悩み事の相談を行っています。さらに月に2回、医師、看護師、福祉士の方々が入院から退院後の事や介護施設退所の支援を高齢者一人ひとりにどの様に行っているか調整会議を開き、事細かに決めています。町営の介護施設もあり待機者も少ない状況です。その他健康づくり体操や寝たきり予防体操を地区ごとに行い、送迎バスを運行して送り迎えをしています。健康診断の受診率も全体では21%だそうですが高齢者は40%と高く健康に対する意識が高いことが分かります。また、地域のコミュニケーションも良く、

各教室とか社交ダンス、ウォーキングなどに積極的に誘い合つて参加し、住民同士の協力も良いそうです。高齢者一人分の医療費も埼玉県の平均より16万円も低い54万6400円で、埼玉県内でも最小の医療費になっています。ちなみに茨城県は80万4131円で高萩市は80万9335円で県平均より5204円上回っています。高齢者一人分の医療、福祉費を合計した金額を小鹿野町と比べてみますと高萩市より14万円も安くなっています。

80歳を過ぎても健康で生き生きと生活できる要因は、徹底した訪問指導や継続する健康づくり場の創設、そして住民参加の促進という三つの要素を含んだ取り組みを三年間に渡って行ってきた結果ではないかと考えているようです。小鹿野町のような体制作りを要望いたします。

市長 小鹿野町の貴重な事例を調べ本市に合った形を検討して行きたいと思つています。

その他質問、太陽光発電について



歌舞伎を演じる自身の写真を手に笑顔を見せる石川さん、95歳＝8月7日小鹿野町(写真:産経新聞)

中井信行 議員

原発事故について

質問 市からの放射線汚染についての問いに研究機関が回答しました。

それは、既にメルトダウンしている状況について全くふれてなく、事態は収拾に向け推移しているかの様に言い、普通の生活をして問題無いとした、無責任なものです。今回の原発事故の放射線被爆では、この程度は支障無しとする学者に対し、安全な被爆量は無いとする立場の学者がいます。日本の法律では一般の人は、年間1ミリシーベルト以上の放射線を受けても、受けさせてもいけないことになっています。しかし、今回の事故を受けて、国は違法にも20ミリシーベルトに上げてしまったのです。この様な措置が正常なわけがありません。今までの日常とは違うことを認識し、放射線被爆について、両論から判断する機会を市民に与えるべきだと思いますが。

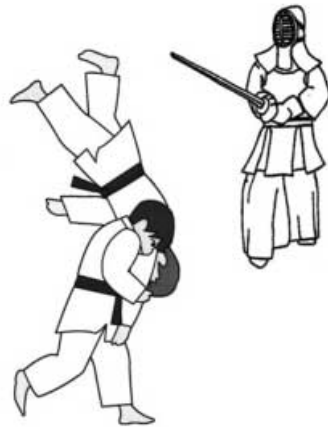
市長 両論の情報では、現在パニックとかその他が想定されます。今後の対応は研究課題として考えてまいります。

教育について

質問 学習指導要領が改訂され、来年度から中学1、2年生で柔道・剣道のいずれかの授業が男女共に行われ、我が国固有の伝統文化である武道が必修化されます。内容について、

先生方の負担、また、事故に対する対策は十分ですか。

教育長 高萩中、秋山中、君田中の3校で柔道を、松岡中で剣道を行います。先生の負担増について配慮する必要があります。武道実施に当たっては初めてのことなので基本動作とか段階的な指導を行い安全面に十分努めていきます。



市民生活について

質問 貧困率が2009年、16%となり85年以降最も悪い水準に達しました。社会状況と共に、生活に困窮した人が増加しています。市も例外ではないと思いますが、一人当りの所得と生活保護の推移を伺います。そして、その対策をどの様に考えていますか。

健康福祉部長 市民所得は18年度が245万7000円、19年度が267万3000円、20年度が263万円です。22年度の生活保護は292人で県内7番目の高い率です。対策は、最後のセーフティネットとして適正実施に真剣に取り組みます。

今川敏宏 議員

震災の影響について

1点目、震災によって地下水脈が変化したと見られる水道施設地域外の井戸の枯渇や、簡易水道の減水や水質変化等の生命維持に直接関わる問題と、敷地内に想定外の湧き水が出て、敷地中が水浸しになっているという問題が起きています。その対策の個人負担やストレスもただならぬものであると想像できます。

2点目、地盤沈下等の影響により、いろんなところで水勾配の不具合が発生しています。例えば、雨水の敷地からの排水や流入、側溝に溜まり水があり匂いや虫がわいたり、自己責任の範疇では解決できない問題になっています。下水道の配管も正常に機能してるか心配です。

3点目、隣地の倒木や崖崩れ、擁壁崩壊や家屋の倒壊も心配です。隣地には公有地と民有地があり、その所有者や管理者の問題になるかと思いますが、市民個人の対応では問題解決にならないこともあるのではないのでしょうか。

4点目、福島原発事故による放射線の問題です。高萩市では放射線量を定期的に定点計測し公表していますが、その数値が国が示す基準値内とはいえ、市民の不安・心配は拭えません。市では放射線を正しく怖がるとした講演を2回に渡り実施

していますが、現実問題である現場での放射線量は無くなりません。以上のような震災による影響が、市民生活の上に大きな暗雲としてあるわけ、市民生活を支える行政としてはどのように考え対処していくのか見解を伺います。

介護予防について

難聴から社会的参加ができずになったり、家庭内でも孤立する事により、生甲斐を失い、閉じこもりや、うつ、認知症へと進展させないためには、定期的な検診を地域で行う事が有効です。見解を伺います。

高萩市のビジョンについて

まちづくりの最小単位は、市民の暮らし、生活の現場である地域コミュニティではないかと思うのですが、そのための課題を四つあげてみたいと思います。

①コミュニティ

イの核となる中心者の育成と支援。
②コミュニティたる地域行事への支援。
③地域割りの考え方。
④コミュニティから漏れてしまった人への対応です。見解を伺います。



大足光司 議員

賑わいのあるまちづくり観光振興策について

質問 高萩市の観光は、海水浴、アウトドア、桜祭り、高萩まつり、秋の花貫溪谷等がありますが、1年を通して観光できる観光スポットはそれほど多くはないと感じます。施設においても自然公園や、歴史民俗資料館、松岡小学校の就将館等も観光スポットであると思いますが、そのアクセスはなかなか解りにくいところです。

国道461号と都市計画道路石滝赤浜線が結ばれ、車のアクセスは良くなりましたが、その周辺は本格的な観光スポットとしての機能を有しているとは思われません。高萩市の商業の活性化を考えた時、観光産業は大変魅力のある分野です。観光スポットの充実と、震災の被害により本市の観光来客数はこれまで以上に減少してしまうと見ますが、対策をどのように考えているのか。

市長 観光スポットの充実については、市民と行政の協働によるスポットづくりが重要と考えています。高萩ブランド創設委員会において市街地を一望できるウッドデッキを年内に建設することとなっています。

建設経済部長 観光客減少の対策ですが、3つの基本方針を定め施策を体系的に進める必要があると考えています。1つは、ターゲット顧客を

明確にした観光メニューの開発と充実であり、①既存観光資源の魅力の向上。②ニューツーリズムの開発、充実。③広域観光の推進。2つ目として、観光客の消費単価向上に繋げる物販・飲食機能の充実で、①食文化の魅力向上。②お土産品の開発・提供。3つ目として、地域内における観光プロモーションの展開であり、①効果的な宣伝、誘客活動の展開。②観光振興を支える人づくり・組織づくりであります。これらの施策を推進することにより、観光客の増加に繋がると考えています。

要望 観光による取り組みは、街の活性化にもつながります。スポーツ、アウトドア、立ち寄り観光、博物館など市において観光コースの開発に取り組むとともに、目玉となる場所を、旅行会社へ商品として売り込むこと。地元の特産品やブランド商品の販促のためにも、花貫物産センターやダムのお店なども整備し、道の駅として人を呼び込める施設に作り上げることも重要ではないかと考えます。それらの方法と対策をご検討いただきたい。



舟生佳紀 議員

市長の市政運営について

質問 松下政経塾で勉強しようとした向上心には、敬意を表したい。

書店で「リーダーになる人に知ってほしいこと」を購入した。松下幸之助、松下政経塾編。だれの言うことでも一応は素直に聞く。いいなと思ったなら素直に取り入れ実行する。人の意見を聞くときは虚心になつて、私心をなくして素直な心で聞く。そして他人の知恵、才覚を授かる。その難しくないことを、人はなかなかできない、そして失敗する。

市長は松下幸之助さんの教えについて、どのような見解をお持ちか伺います。

市長 衆知を集める部分についてはちよつと能力に欠ける嫌いがある、耳を傾ける、そして汗をかくこと、今後とも幸之助さんが望んだリーダーとなるように、精進を重ねる。

質問 市長に対して直言や苦言を言う職員は皆無と思う、人事権を持つ市長であります。市長就任以来、市政運営を見ますとトップダウンよりもボトムアップが必要と思う。ボトムアップについて伺います。

市長 今後とも今以上に職員の意見を聞きながら市政運営をやっていき

質問 竜子山城址公園について
故中山雅生さんがふるさと松

岡地区の町並みがきれいになったので、今後は竜子山城址公園をつくって、その資金の一部として役立たせていただきたいと1000万円を寄附されました。どのようなになっているかお知らせください。

市長 城址公園の整備が当面見込めないで、ご遺族と関係者の了解を得て松岡藩校の整備事業に使用した。

質問 私は1000万円の取り崩しには賛成できません。中山雅生さんの思いを考慮して、1000万円を積み戻しておいてほしい。歴史的町並みを国が支援、城郭復元など支援助成する歴史的風致の維持再生に関する法律が提出されている、この法律がどのようなになっているか。

経営戦略部長 平成20年11月4日に施行されている。今後は検討して参りたいと考えております。



お屋敷通り

議案質疑

第3回定例会に提案された報告及び議案に対して次の質疑がされました。

報告第53号 専決処分承認を求めることについて(平成23年度高萩市一般会計補正予算(第5号))

中井信行 議員

質問 専決処分の災害救助費扶助費2千600万円の内容は。

健康福祉部長 4月の専決後に発生した見舞金で、全壊が176戸、半壊1151戸、床下浸水20戸、3か月以上の負傷者3名、1週間以上の負傷者3名、計1353件です。

質問 専決処分の君田中水源施設災害復旧工事費800万円についての現況は。

教育部長 震災による水源確保事業です。現在施工中で毎分30リットルの水が出ています。12月上旬には水環境が正常に戻る予定です。



議案第43号 高萩市暴力団排除条例の制定について

大足光司 議員

質問 条例には理念・目的、役割等が記載されていますが、市民の安全安心を考えるための支援策とする広報・啓発はどのような考えであるのか。条例が制定されても怖くてなかなか声を上げられないと思います。市においても市民の声や、情報等を集める窓口を設置されるのか。

総務部長 広報・啓発活動ですが、ポスター、パンフレット等の配布、暴力団追放市民大会の開催、更にはマスメディアの活用を考えています。

市民相談窓口は、警察署が24時間対応をいただけることと、茨城県暴力団追放推進センターの窓口があります。高萩警察署と連携を取りながら行なっていきたいと考えています。

議案第50号 平成23年度高萩市一般会計補正予算(第6号)

平正三 議員

質問 地域防災計画の見直しは、どのようなところに重点を置いているのか。

総務部長 東日本大震災を受け、課題等の整理を行い、全面的に見直したい。防災計画に原子力に関する事項が入っていないので、今回計画の中に含めて考えたい。

質問 どういう規模の地震を想定して計画を立てられるのか。今回補正予算で屋外防災無線が駅東地区に16基設置されることは大きな前進である。戸別受信機の設置と浜地区以外の防災無線の計画についてどのような計画されているのか。原子力事故に対応して、ヨウ素剤、マスクなどの備蓄計画を立てられるのか。

総務部長 現在マグニチュード8クラスで震度6弱を想定しているが、今後同等の防災計画と整合性を図っていく。駅西については、次の課題と思っている。戸別受信機について答えは差し控えたい。ヨウ素剤、マスク等は計画に反映させたい。

大足光司 議員

質問 このころの里シテイPR事業経費272万7000円、がんばろう高萩復興支援映画上映会委託料22万6000円、ロケ地マップ策定経費345万7000円の内容をお聞かせ下さい。

建設経済部長 このころの里シテイPR事業委託料は、緊急雇用創出事業費補助金を活用するもので、商工会では、駅前通にある空き店舗を10月中旬より休憩所、憩いの場、市の情報発信所として位置づけ、様々な取り組みを予定しています。名称は「やすんでっ亭」です。本市もこの拠点を活用し、商工会と一体となり取り組んでいくことを考えています。がんばろう高萩復興支援委託料(緊急

雇用創出分)ですが、東日本大震災における復興の一環として、高萩フィルムコミッションで最近支援した作品の上映を考えています。観光事務経費、ロケ地マップ作成委託料(緊急雇用創出分)は、今回の東日本大震災以来、ロケの件数は激減しており、これらを打開するため、放射線に係る安全性を伝え、復興のために頑張っているのだという姿を映画等の制作会社、あるいは観光客にロケ地に訪れていただくために作成し活用していきたいと考えています。

今川敏宏 議員

質問 緊急雇用創出事業費補助金について、何名の雇用が見込めるのか。アセットマネジメントの白書作成には客観性の担保はされるのか。

東日本大震災記録集作成にあたってはプライバシーに配慮する必要があるとともに、全ての記録を残しておく責任もある。どのように考えているか。

建設経済部長 雇用される人数は57名を予定している。

総務部長 アセットマネジメントとは公共施設の効率的な運用計画であり、当然のことながら客観性は担保される。

市長 記録集の写真については、市で撮ったもの、市民がもっているものを活用しながら、プライバシーに十分配慮しながら作成したい。

菊地正芳 議員

質問 子宮頸がんワクチン接種促進経費について伺う。

健康福祉部長 子宮頸がんワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン予防接種は当初4月から実施予定だったが次の3点の理由で開始が遅れた。1つは子宮頸がんワクチンの供給不足。2点目はヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチン接種後、死亡事例が発生したことから一時接種を見合わせた事。3点目は震災関連事務を優先した事で医療機関との調整が遅れ、その為4月から自主的に接種した対象者について、償還払いにより助成出来るよう補正をしたものです。

質問 子宮頸がんワクチンは、世界が認める一番安全で効果のあるワクチン、このワクチン接種がうまくいかなければ、ほかの「がん」についてもうまくいかないと言ってもいいくらい素晴らしいワクチンであると評価する専門家もいます。そういう意味では風評に負けず接種率を上げていたいただきたい。

地域防災計画を策定するにあたり市民の声をどの程度把握しているのか伺う。

総務部長 学校等の聞き取りについては教育委員会が実施し、さらに総務・健康福祉部の方も同席して保育所を含めた聞き取りを実施した。総務関係では常設委員、自主防災組織でも実施した。

質問 防災行政無線について事業計画を伺う。

総務部長 全体で16基の整備を進める、1か所に付きスピーカーを4個設置し高さ14・9m、音声範囲は300mのものを整備する。全体の導入費用は約1億1000万円で保守管理経費は10年間で700万円と見込んでいる。

中井信行 議員

質問 地域支えあい体制づくり事業費補助金37万2000円の内容は。

健康福祉部長 茨城身障者等用駐車場利用者証を発行する事で、公共施設やショッピングセンターなどの駐車場施設を障がい者が利用しやすくするものです。

質問 地域自殺対策緊急強化交付金事業費補助金39万円の内容は、県では昨年度自殺者は700人にのぼりましたが、市の状況はどのように推移していますか。また、原因はどうですか。

健康福祉部長 20年度15名で高い値です。今年度は震災以降増え、6月末で既に7名です。働き盛りの年代が多く原因の1位には、家庭内問題、2位が経済、生活問題及び健康問題となっておりま。

質問 公園維持管理経費2900万円の内容は。

建設経済部長 公園土地を返還するに当たり、面積4500㎡を水田に復元するため1㎡土を入れ替えます。

吉川道隆 議員

質問 プレミアム商品券1万1000円分を、商工会に入っていないお店でも使える分が4000円、入っている店では使えない分が7000円となっているが、使える店の一覧表がないとわからない。前回売れ残ったことから考えると、その割合が逆の方が消費者としては使いやすから、売れるのでは？

建設経済部長 一覧表は検討する。利用可能な店の割合について商工会と検討をしていく。

質問 はぎまる知名度アップの予算が出ているが、実際、集客効果はあるのか？着ぐるみは中に入ると、かなり汗をかくが衛生的にどうか？

建設経済部長 ゆるキャラの集客効果は分析していない。調査して報告する。衛生上の問題は気にしていなかったため、今後検討する。

議案第53号 平成23年度高萩市水道事業会計補正予算(第4号)

吉川道隆 議員

質問 4トンの給水車を購入することになっているが、なぜ4トンなのか？2トンや2台、または、4トンでも車ごとでなく車載用タンクにすればいいのではないか？簡易の1トンのポリタンクを小中学校に8基整備するとなっているが、1600万円もかけて4トン給水車を買うより、

各団地にも整備できるよう、ポリタンクを8基より多く購入した方が効率的ではないか？

市長 震災のときに、協同病院等より1日100トンの水を供給してほしいという依頼があったが、1トンの給水車では100回行かなければならないので、自衛隊に対応してもらった。4トンのものがあれば、対応できるのではと考えて提案した。

質問 病院のような大きい単位に対応は自衛隊にお願いして、機動的なものを考えるべきではないか？

討論

第3回定例会に提案された議案に対して次の討論がされました。

議案第53号 平成23年度高萩市水道事業会計補正予算(第4号)

反対討論

吉川道隆 議員

県内最大となる4トンの給水車を1680万円、専用の車庫601万円合わせて約2300万円で購入することになった。災害時の対応として必要性は感じるが、水戸市でさえ2トンしか持っていない給水車、「身の丈に合った」と言えるのか？

東京23区内でさえ、北区で今年の5月に2トンの給水車を配備したのが初めてで、他はみなリース。車は中古車で購入金額は約647万円。

4トンというのは自治体で考える必要はないのではないのか？2トンの車載用のタンクを2基買うほうが、機動的で効率的。4トンの給水車を買って、災害がなくてずっとそのままでは、しつかりメンテナンスをしないと、いざというときに動かなくなったら大変。病院に必要な水を給水車だけで対応するのは難しい。そこは自衛隊に任せるしかない。予算ではFRP製の受水槽8基分、各小中学校に設置することになっているが、耐用年数は約15年。ステンレス製の給水槽なら耐用年数は30年で1トンあたり30万くらいで出来るし、給水車は2トンにして、その分、病院や学校その他もろもろの公共施設に食品の備蓄とともに給水槽を設置した方がよかった。以前にバスや発電機を売って、「高く売れてよかった」と言っていたが結果的に今回必要だったはず。バスならいろんな団体が使用するし、災害時に避難させる手段として必要性が高い。

今後の高萩市の防災の取組みを、いま一度市民の目線になって検討していただきたい。



一般質問、議案質疑、討論及び応答の記事は、質問者自身が要約したものです。

震災復興等対策特別委員会調査報告書(抜粋)

去る平成23年第2回定例会において当委員会に付託された、震災復興等対策に関する調査検討につきまして、執行部から震災復旧・復興に関する資料の提出を求め、協議してまいりました。

その結果、災害から一日も早く安全、安心なまちづくりに向けた、復旧、復興を促進するため、次のように提言すべきものと決定いたしました。

○市庁舎については、「本庁舎建設を見据え、市有地を有効活用して、仮設庁舎を速やかに建設し、総合福祉センター、リーベロたかはぎの機能を本来の使用目的に戻す。

仮設庁舎の建設にあっては、街の活性化、経済の効率化、利便性を考慮する。」

少数意見として、「仮設庁舎建設地は民有地を含めて検討する。」「新たな仮設庁舎等はつくらず、総合福祉センターを改修して業務を行う。」旨を付記する。

○危機管理については、

1として、「防災行政無線の整備、具体的な初動対応の構築と周知。」

2として、「放射能物質の安全基準について、国の基準等を参考にしつつ、市内の教育施設等を同一基準とする。」

3として、「花貫ダム、小山ダムの決壊等に対する下流地域の防災にかかる整備。」

4として、「愛の鐘並びに各消防分団等の既設放送機器の有効活用。」

○地域コミュニティ（常会問題など）については、「新聞折り込みについては検討しつつ、コミュニティ組織（常会等）の再生については、早急な施策の実施。」

○文化振興（社会教育施設の復旧など）については、「社会教育施設の早期復旧」

○農業・商業・観光の振興については、「活性化を図る施策の実施」と「風評被害等に係る高萩市の詳細な情報の発信。」

○震災復興に対する行政の対応については、「下から意見の上がる、継続した活力ある職場環境の構築。」

第3回定例会 議案等審議結果

番 号	件 名	結 果
報告第53号	専決処分の承認を求めることについて (平成23年度高萩市一般会計補正予算 (第5号))	原案承認
報告第54号	専決処分の報告について (損害賠償の額の決定及び和解について)	受 理
報告第55号	専決処分の報告について (損害賠償の額の決定及び和解について)	受 理
報告第56号	専決処分の報告について (損害賠償の額の決定及び和解について)	受 理
報告第57号	平成22年度高萩市一般会計継続費精算報告書について	受 理
報告第58号	高萩市健全化判断比率について	受 理
報告第59号	高萩市資金不足比率について	受 理
議案第43号	高萩市暴力団排除条例の制定について	原案可決
議案第44号	高萩市市税条例等の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第45号	高萩市秋山菖蒲霊園事業管理基金条例の一部改正について	原案可決
議案第46号	高萩市都市計画税条例の一部改正について	原案可決
議案第47号	高萩市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第48号	高萩市公民館使用条例の一部改正について	原案可決
議案第49号	高萩市道路線の認定について	原案可決
議案第50号	平成23年度高萩市一般会計補正予算 (第6号)	原案可決
議案第51号	平成23年度高萩市国民健康保険事業特別会計補正予算 (第2号)	原案可決
議案第52号	平成23年度高萩市介護保険事業特別会計補正予算 (第1号)	原案可決
議案第53号	平成23年度高萩市水道事業会計補正予算 (第4号)	原案可決
議案第54号	平成23年度高萩市工業用水道事業会計補正予算 (第3号)	原案可決
議案第55号	平成22年度高萩市一般会計歳入歳出決算認定について	原案可決
議案第56号	平成22年度高萩市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案可決
議案第57号	平成22年度高萩市老人保健事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案可決
議案第58号	平成22年度高萩市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案可決
議案第59号	平成22年度高萩市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案可決
議案第60号	平成22年度高萩市霊園事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案可決
議案第61号	平成22年度高萩市水道事業会計決算認定について	原案可決
議案第62号	平成22年度高萩市工業用水道事業会計決算認定について	原案可決
議案第63号	平成22年度高萩市・日立市事務組合一般会計歳入歳出決算認定について	原案可決
	震災復興等対策に関する調査検討について	原案承認
議案第64号	高萩市議会委員会条例の一部改正について	原案可決
意見書案第2号	教育予算の拡充を求める意見書の提出について	原案決議
意見書案第3号	東京電力福島第一原子力発電所事故に係る意見書の提出について	原案決議

請願・陳情の審議結果

件 名	結 果
教育予算の拡充を求める請願	採 択
早期の学校耐震化及び教育復興を求める請願	採 択



本会議は一般に公開され、気軽に傍聴ができます。本会議の当日、総合福祉センター玄関の受付で住所・氏名・年齢を書いていただき、係員の指示に従って傍聴してください。各委員会は、委員長の許可により傍聴できます。

傍聴席の数は、本会議が40席、各委員会が10席程度です。

3月11日の震災で、議場が使用できなくなり、定例会、臨時会は総合福祉センター（高萩市春日町3-10）の多目的ホールを使用して開催しています。

編集後記

議会だよりが発行される11月7日は、新しい議員が決定されている。

激戦を戦い抜き、市民の附託を得て当選した議員の皆様は、高萩市の発展と興隆を期していると思います。

今後の議員活動をするにあたり、自分の活動のテーマを決められたらと提言したい。

自分はどのようなテーマのもと議員活動をしていくのか、一般質問等もテーマに沿う質問もできると思います。

議員とは、議論をする「ヒト」と言われている、議会の活性化なくして高萩市の発展はないと思います。

（舟生佳紀記）

議会だより

編集特別委員会

委員長
副委員長
委員

鈴木 菊舟 大田 吉舟
木正 地生 川道 所和 森要
修二 芳紀 隆雄 二司